

第7号議案

防災・安全交付金(河川改修)
 一級河川^{たたらがわ}多々良川 邑楽町

着工年度
 評価理由

平成13年度
 再評価後5年経過

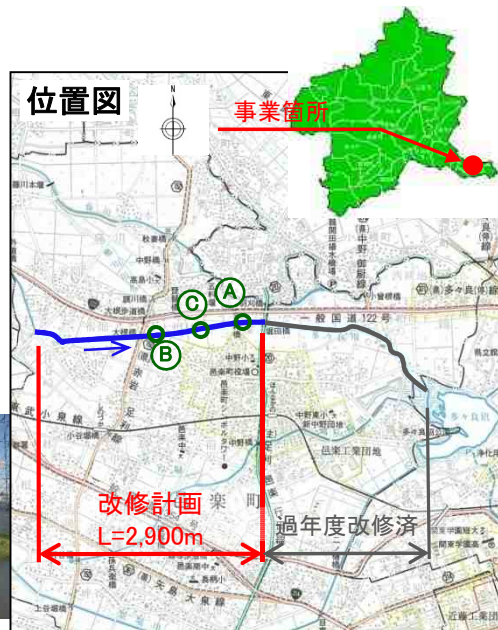
1. 事業の目的

一級河川多々良川は、邑楽町内を流れて多々良沼に流入し、更に多々良沼から矢場川に注ぐ河川延長約9.5km、流域面積21.4km²の主要河川である。

過去の改修により、(主)足利邑楽行田線の堀田橋下流については流下能力の向上が図られているが、堀田橋を含むこれより上流は、断面狭小で過去に幾度となく沿川地域で浸水被害が発生している。

このため、築堤と河道拡幅により洪水を安全に流下させ、沿川地域一帯の浸水被害及び内水被害の軽減を図ることを目的としている。

位置図



S57.9洪水



H10.8洪水



H14.7洪水

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	おうらまちなかの 邑楽町中野 ~ おうらまちのうち 邑楽町石打	
	今回	前回(H22)再評価時
区分	今回	前回(H22)再評価時
全体事業費	1,900百万円	1,900百万円
全体事業費増減の理由	-	-
事業期間	H13~H34	H13~H27
事業内容	河川延長 2,900m 計画規模 1/20 計画流量 20m ³ /s (現況流下能力約7m ³ /s)	河川延長 2,900m 計画規模 1/20 計画流量 20m ³ /s (現況流下能力約7m ³ /s)

事業経緯

年度	主な経緯
H13	事業着手
H17	用地買収着手
H20	工事着工
H27	丑沼橋下流まで完成予定

進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	1,900百万円	906.7百万円 (47.7%)	317百万円 (16.7%)
用地買収	37,200m ²	17,590m ² (47.2%)	8,735m ² (23.5%)
計画延長	2,900m	1,000m (34.4%)	150m (5.2%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

計画延長 L=2,900m(整備済 L=1,000m)

道路橋14橋(整備済 4橋、廃止済 1橋)

・県道橋2橋(整備済 1橋)

・町道橋12橋(整備済 3橋、廃止済 1橋)

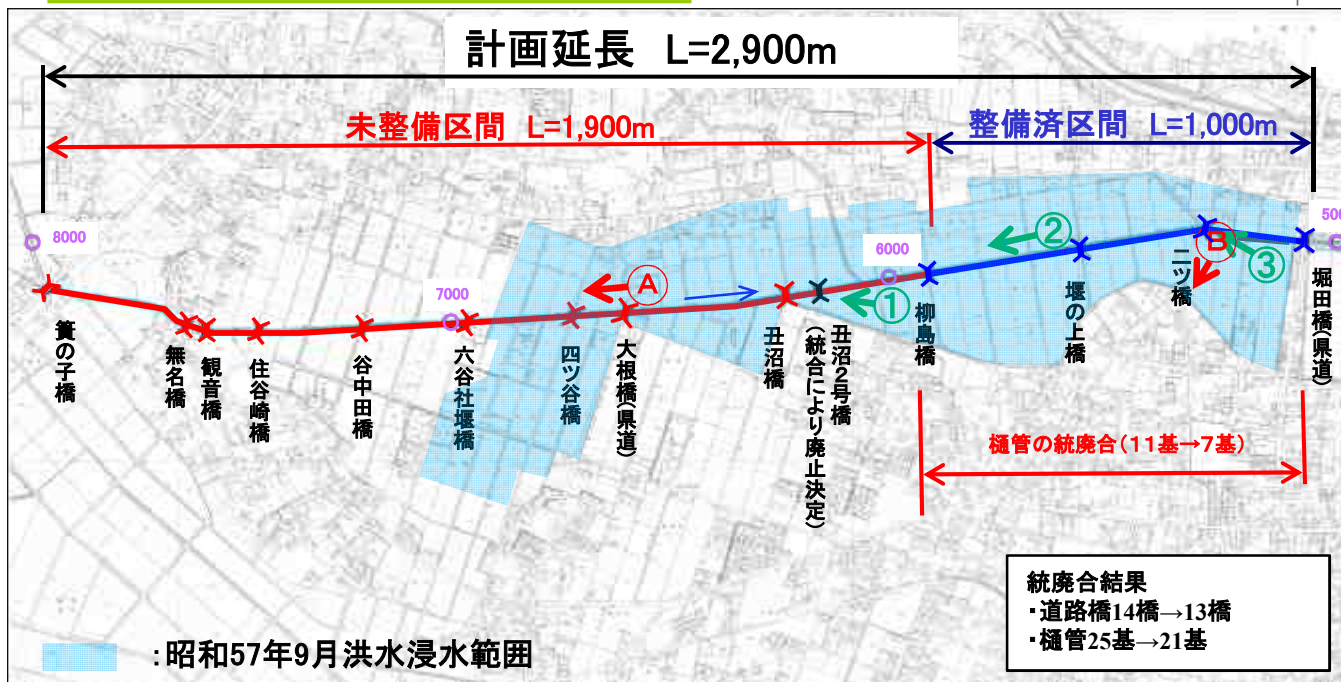
水路橋5橋(整備済 2橋)

樋管21基(整備済 7基)

堰2基、揚水機場2基(未整備)



①未整備区間

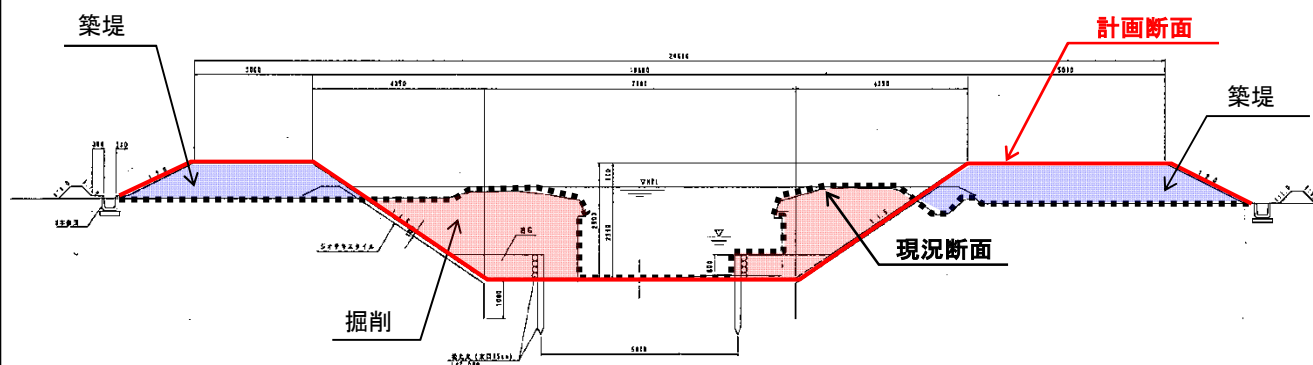


②整備済区間



③整備済区間

標準横断面図(①付近)



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

当該河川流域は、多々良沼の背水の影響や流下能力不足により、沿川の住宅地や農地において浸水被害が頻発しており、昭和57年、平成10年、平成14年、平成27年と被害が発生していることから事業の必要性は高い。

今後も溢水による浸水被害が予想されるため、引き続き河道改修を促進させ、治水安全度の向上を高める必要がある。

H14. 7月 浸水状況



老人ホーム周辺の浸水



道路冠水

H27. 9月 浸水状況



老人ホーム周辺の浸水

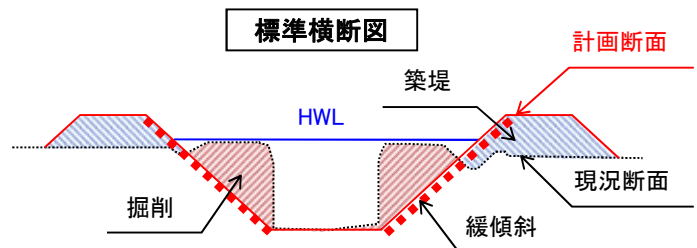
4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

治水対策として、河道改修、調節池、放水路が考えられるが、本流域の地形や土地利用状況等を考慮すると、工期やコスト面においても、現況の河川断面を拡幅する河道改修が最良の手段である。

また、河川断面が拡幅された下流の整備済み区間では、出水時において安全に洪水を流すことが可能となり、事業効果を発現していることから、引き続き上流部も河道改修を進める。



整備済み区間(H26.6豪雨)



費用便益分析

		前回 (H17) 再評価時		今回 再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月			
基準年		平成21年		平成26年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費①	1,690,560	91.3%	1,828,320	91.9%		
	維持管理費②	161,290	8.7%	161,290	8.1%		
	残存価値③	—	—	—	—		
費用合計(C): ①+②-③		1,851,850		1,952,470			
便益 (千円)	一般資産被害軽減便益①	2,080,720	34.9%	1,893,049	34.6%	汎濫面積A=52.4ha 浸水家屋N=104戸	
	農作物被害軽減便益②	61,970	1.0%	66,416	1.2%		
	公共土木施設等被害軽減便益③	3,512,250	58.8%	3,195,467	58.5%		
	営業停止被害軽減便益④	230,620	3.9%	224,024	4.1%		
	応急対策費用軽減便益⑤	44,740	0.8%	63,133	1.2%		
	残存価値⑥	38,620	0.6%	22,680	0.4%		
便益合計(B): ①+~+⑥		5,968,910		5,464,770			
費用対効果分析(B/C)		3.22		2.80			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

[元々が長期計画]

・河川事業では、河道狭窄部のみを改修すると、その下流に新たな氾濫を起こすおそれが生じるため、下流から事業を進捗させる必要がある。本河川においては2,900mにわたる区間での河道改修が必要であり、長期計画となっている。

[不測の事態により長期化]

・町道橋の架替や樋管等の機能補償にあたり、施設の統廃合や負担金の扱いについて施設管理者との協議を進めてきたが、町道橋12橋(整備済3橋、廃止済1橋)の架替(拡幅)に伴う町の負担金を考慮した結果、7年間の不測の期間を要する。



柳島橋(架替前)



柳島橋(架替後)

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・本事業は、河道拡幅による改修によって多々良川沿川の浸水被害を軽減するための事業である。
- ・下流部から順次改修を進めており、現在事業費ベースで47.7%の進捗が図られている。
- ・残る町道橋や樋管の機能補償については、統廃合について施設管理者と協議を行い、全体の施工計画を整理することで、工期短縮を図りつつ事業を進捗させたい。
- ・引き続き、自然素材の活用や土羽護岸の採用、橋梁や樋管の統廃合を行いコスト削減を図りながら、事業期間を7年間延伸して平成34年度の完成に向けて事業を推進したい。